

平成 30 年度センター等のミッションの再定義に関する 取組状況の自己点検・評価報告書

センター等名	I C T 基盤センター
全学的視点から重視する特色、担うべき役割	<p>(注：第3期中期目標・中期計画策定に係る部局等ヒアリングで説明された6年後の構想等を参考に記載願います。)</p> <p>ICT 基盤センターは、沿革にあるそれまでの情報センターよりも進化した「ICT による知の基盤」を提供することを本質的なミッションとする組織としてスタートした。ICT 基盤センターが提供すべき「ICT による知の基盤」を機能面からみると</p> <p>A 本学の知的資産を安全に保持する機能 B 様々な知的活動を ICT の側面から支援する機能 C 本学の有する知的資産の価値を高める機能</p> <p>であると分類できる。</p> <div data-bbox="456 943 1366 1603"> <p style="text-align: center;">ICTによる知の基盤</p> <p>□ ICT基盤センターの設置目的 ICTを活用した教育研究環境を提供するため、情報政策の企画立案・実施、高度情報化技術に基づく情報基盤の整備、教育の情報化及び情報教育の推進並びに知識情報基盤の整備及び活用支援を行うことを目的とする。</p> </div> <p>機能ごとに、行うべき取組みは以下のようであり、3部門が連携してこれらの取組みを実施する。また、第3期中期目標・中期計画期間に実施する本学の情報政策をまとめた「ICT マスタープラン 2016」「ICT アクションプラン 2016」と ICT 基盤センターの提供すべき「ICT による知の基盤」の3機能は整合しており、ICT 基盤センターがそのミッションを果たすことができれば、第3期の情報政策の多くは達成できることになる。</p>

	<p>〔各機能において行うべき取組み〕</p> <p>A 本学の知的資産を安全に保持する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤に関する不断の調査研究と整備改善を行う。 ・情報システム事業継続計画（IT - BCP）への取組を推進する。 ・本学構成員の情報セキュリティリテラシー向上への取組を行う。 <p>B 様々な知的活動を ICT の側面から支援する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育の不断の改善と強化を行う。 ・各部局の進める教育の情報化を支援する。 ・本学教職員学生の ICT 利活用の支援を行う。 <p>C 本学の有する知的資産の価値を高める機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教学情報基盤の改善を通じ、教学情報基盤に蓄積される情報の多様な活用を図る。 ・ビッグデータの利活用支援を通じて本学のブランド価値を高める。 ・ICT を用いたイノベティブな研究を推進する。 <p>（注意）上の各取組みは、それぞれ、多くの具体的な取組みをまとめた表現になっている。</p>
<p>上記に関する 取組み状況</p>	<p>（学部・研究科を中心に全学的な期待への対応、学部・研究科への支援状況を中心に記載してください。）</p> <p>A 本学の知的資産を安全に保持する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを最大限強化した次期情報通信基盤の構築に向け、民間企業を交えた勉強会を計 6 回実施した。 ・情報セキュリティ対策の強化のためファイアウォールシステムを導入した。 ・NII「大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築」に参加し、情報セキュリティ対策を継続的に行っている。 ・3 社 3 機器の不正通信検知センサーの実証評価試験を経て、不正通信検知センサーを導入し、情報セキュリティ対策を継続的に行っている。 ・「情報セキュリティ対策基本計画」の策定、「長崎大学における情報セキュリティ対策の実施に関する要項」の制定、「長崎大学における情報の格付け及び取扱制限のガイドライン」を制定し、事務局及び ICT 基盤センターにて情報の格付け及び取扱制限を本格運用した。 ・平成 28 年度に長崎県警の呼掛けに応え、本学を含む県内 14 組織で「長崎県サイバーセキュリティ相互協力協定」を締結し、情報セキュリティに関する交流を継続的に行っている。 ・全新生向けに情報セキュリティ特別授業を実施した。 ・本学構成員の情報セキュリティリテラシー向上への取組として、情報セキュリティ講習会を開催した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 脆弱性診断ツールを導入し、Web 脆弱性診断を行った。 ・情報倫理の学習用動画を学内に公開した。 <p>B 様々な知的活動を ICT の側面から支援する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して各キャンパスに設置した ICT サポートカウンターの活動を行っている。 ・全新入生を対象として、本学の情報環境への接続説明会を実施し（平成 30 年 4 月 3 日、5 日）、情報科学科目「情報基礎」においてフォローした。 ・新入生向け ICT セミナー（基調講演：株式会社ブイキューブ間下社長）を開催した。 ・長崎大学生協を主催者とする形で、平成 31 年度新入生向けの PC 初期セットアップ説明会を開催した（平成 31 年 3 月 22 日～3 月 31 日）。 ・LACS の複数の機能において改善と拡充を行った。 ・LACS 講習会を行った。 ・部局による e ラーニングの支援を行った（研究国際部）。 ・九州大学大型計算機の活用支援を行った。 ・大学などの高等教育機関や研究機関において、キャンパス・研究所の無線 LAN 環境の相互提供・利用を行う eduroam サービスを継続的に行っている。 <p>C 本学の有する知的資産の価値を高める機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン FD「著作権入門～基礎編～」及び「著作権入門～実践編～」を実施した（LACS で提供）。 ・長崎県の官民協働クラウドにて観光活性化支援システムの運用を継続的に行っている。 ・ICT を用いたイノベティブな研究を推進した。
達成指標	<p>（決定している達成指標を記載してください。）</p> <p>A 本学の知的資産を安全に保持する機能の強化に向けた取組み（情報セキュリティ自己点検の制度化など）の内容と件数</p> <p>B 教職員学生の ICT 利活用支援業務の内容と回数、対象人数</p> <p>C ビッグデータ利活用支援事業の内容と進捗状況</p>
達成指標の進捗状況	<p>（第 3 期中期目標期間中に達成する上記指標について、平成 28 年度末の状況を簡潔に記載してください。）</p> <p>A 本学の知的資産を安全に保持する機能の強化に向けた取組み（情報セキュリティ自己点検の制度化など）の内容と件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 4 月に、新入生へ情報セキュリティリーフレットを配布し、更に情報セキュリティ自己点検システムに掲載した。リーフレットの配布部数は学生 1,670 名。 ・情報倫理の学習用動画を学内に公開し、平成 30 年度は 176 件のアクセスがあった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 4 月に、新入生向け本学情報通信環境説明会を実施し、情報科学科目「情報基礎」において全員をフォローした。対象者 1,675 名。 ・平成 30 年 4 月に、新入生向けの情報セキュリティ特別授業を行った。新入学生 1,670 名、上位年次学生や教職員 36 名、学外者 21 名が参加した。 ・平成 30 年 12 月に、情報セキュリティ講習会を開催し、教職員・学生 63 名及び学外者 16 名が参加した。 ・平成 30 年 9 月に、情報セキュリティ基礎講習会を各キャンパスで計 9 回開催し、教職員 8 名が参加した。 ・「長崎大学における情報の格付け及び取扱制限のガイドライン」に従い、事務局及び ICT 基盤センターにて「情報の格付け及び取扱制限」を本格運用した。 <p>B 教職員学生の ICT 利活用支援業務の内容と回数、対象人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館、医学分館、経済学部分館に設置した ICT サポートカウンターを学生・教職員が利用した。（平成 30 年度利用者数 学生 1,478 名・教職員 401 名） ・平成 30 年 4 月に平成 31 年度新入生向け ICT セミナー（基調講演：株式会社ブイキューブ間下社長）を開催し、170 名の学生・保護者が参加した。 ・平成 31 年 3 月に平成 31 年度新入生向け ICT セミナー（基調講演：外資系コンサルティングファーム 浦川氏）を開催し、167 名の学生・保護者が参加した。 ・平成 30 年 5 月～平成 31 年 3 月に、教職員向け LACS 講習会を 10 回開催し、教職員 33 名が参加した。 ・平成 30 年 4 月に「九州大学研究用計算機システム利用者向け講習会」を開催し、学生・教職員 15 名が参加した。 ・平成 29 年度 2 月からサービスを開始した eduroam サービスの平成 31 年度利用者は、本学の教職員の利用も合わせ延べ 1418 名の利用があった。 <p>C ビッグデータ利活用支援事業の内容と進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「COC+観光ビッグデータ活用プロジェクト」において、広島市立大学と本学共催で COC+フォーラム 2018 を広島で開催した。 ・平成 30 年 3 月に長崎県の官民協働クラウド上の観光活性化支援システムの一般公開を行った。 ・観光ビッグデータ及び他のソーシャルビッグデータを活用できる人材を育成するための社会人向けのセミナー「観光関連ビッグデータを題材とした分析技術基礎&実践講座」を実施した。また、平成 29 年度から引き続き平成 30 年度も工学研究科の院生を対象とした授業科目「ビッグデータ解析概論」を開講した。 ・NTT 西、NTT アド、JCB との共同研究で収集した長崎県・熊本県・福岡県を周遊する外国人観光客の GPS 情報と購買情報を、匿名化されているが識別
--	---

	可能な情報にし、本学システムで利活用できるようにした。（収集時に利活用することは通知済み）
取り組み状況等において、特に伸長した点や改善すべき点	ABC3分野のどの取り組みも本格的なスタートを切り、第3期の中期目標を十分に達成できる見込みである。ただし、予算的な裏付けがなくては遂行することが困難な取り組みも多く、経費節減と同時に外部資金獲得に更に心掛ける必要がある。